

子ロバキッズひろば 児童発達支援自己評価 (未就学児童へのサービス評価)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	○		
	② 職員の配置数は適切であるか	○		
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また障がいの特性に応じ、事業所への設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		遊びや活動に応じて室内を分けています。絵本を読む場所、勉強する場所、ままごとをする場所など…。そうすることで子どもが遊びを自ら選んでその場へ行くことができます。面談場所が3階となるため階段の昇降があります。バリアフリーとは言えないところがありますので、面談を1階の療育場で実施するなどして対応しています。
	④ 生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	○		
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	○		
	⑥ 保護者等向け評価表により保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し業務改善につなげているか	○		
	⑦ 事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ事業所として自己評価を行うとともにその結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業の会報やホームページ等で公開しているか	○		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	第3者評価をまだ実施しておりません。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		最後の欄に詳細を掲載しております。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画を作成しているか	○		

適切な支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		
	⑫	児童発達支援計画には児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されているか	△		実施しているクラスによっては、個別療育やグループワークに特化しているためそこだけを記載している個別支援計画になっていることがあります。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		月に1度の定例会議およびクラスごとの支援会議や職員間での療育の方向性について定期的に話し合いの場を持っています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		毎朝実施しております。その他気になることは随時話し合いをしており、職員間でのコミュニケーションを大切にしております。
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		
	㉑	障がい児相談事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		

関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		地域社会への参加、包容(インクルージョン)を推進するため保育所、幼稚園、小学校等と連携を図りながら支援を行います。専門的な知識・経験に基づき保育所等の後方支援に努め、暮らしやすい地域社会を目指しています。連携している幼稚園・保育園・小学校が多数あります。
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者相談支援センターなどの専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		当事業所は、隣接する子ロバ保育園をはじめ近隣の小規模乳児保育園の子ロバ乳児園、淀川区に十三保育園を運営しております。ろばっこクラスはイベントと一緒に参加しています。また2階は学童保育を行っているため小学生のお姉さん、お兄さんにお手伝い頂き交流することもあります。
	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		毎回保護者の方にその日の子どもの様子をお伝えしています。ご家庭でもできる事も提案しています。ご家庭と一緒に支援を行うことが必要と感じています。またクラスごとの懇談会があります。
	㉘	保護者の対応力の効用を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	○		当事業所の心理職員によるABAペアレントトレーニングを実施しています。
	㉙	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		

保護者への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		
	③④	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概念や行事予定、連絡体制などの情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		
	③⑧	個人用法の取り扱いに十分注意しているか	○		
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		地域と密接な関係を築いています。散歩の際や登下校の見守りなど毎日挨拶し子どもたちの事を見守って頂いています。
非	④①	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を装置した訓練を実施しているか	○		マニュアルは事務所に掲示しております。感染症マニュアルは全トイレに配置しています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○		

常時の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		クラスによっては給食提供を行っています。医師の指示書に基づいて連携施設である子ロバ保育園の栄養士と月に1度のアレルギー会議を実施し保護者に献立の同意を得てから給食提供を実施しています。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		
	④⑥	虐待を防止するため職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか	○		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で児童発達支援計画に記載をしているか		○	身体拘束は行わない事を前提に療育していましたが、今後はそういった事態があることも想定しながら来年度検討していきます。

30年度 参加研修

【外部研修】

○ 認定NPO法人 日本ポーター協会 グループ指導カリキュラム研修セミナー

【内部研修】

○十三保育園・子ロバ保育園・子ロバ乳児園・子ロバキッズひろば・クラブ 法人内保育部門研修
 ・障がい児勉強会 2ヶ月に1回 講師 富岡 樹里 目 令子